alveolar soft part sarcoma resected by median thoracotomy.

（三井記念病院呼吸器センター）
秋山　義之・宮元　秀昭・
福田　　宏・鰐渕　康彦
（同病理）　広瀬　敏樹

症例は36歳女性．検診の胸部単純X線写真にて両側肺異常陰影を指摘される．精査にて右大腿外側部の直径7 cmのalveolar soft part sarcomaの両側肺転移と診断される．右大腿外側wide resectionの後，胸骨正中切開による両側同時開胸にて右S^3b，左S^8b部分切除施行した．文献的考察を加え報告する．

72. 再発か異時性重複癌か診断に苦慮した肺腺癌の1例

A case of pulmonary adenocarcinoma, suspected non-synchronous double cancer or recurrence.

（中央鉄道病院胸部外科）
福田　千文・室田　欣宏・
大塚　俊通・浅野　献一

症例は49歳の男性．昭和56年8月，高分化腺癌で上葉切除($T_1N_0M_0$)を行った．57年10月，血痰出現増加，確診がつかず気管支内トロンビン注入を繰返した．60年1月，左下葉に腫瘤出現．同年7月，BAE施行により血痰は消失したが，腫瘤は増大し，61年9月，左下葉切除を行った．以上，病理学的に重複癌の可能性が認められたため報告する．

73. 肺芽細胞腫と結腸癌重複の1剖検例

An autopsied case of pulmonary blastoma combined with colon cancer.

（都立府中病院呼吸器外科）
井村　价雄・山本　　弘・
大塚十九郎・小檜山　律
（同病理）　水口　國雄

85歳，男子，老人検診で右下葉腫瘤を発見され(1980年11月)，高齢であること，CEA14.5，骨転移（胸椎）疑いで病理不明のままCo治療した．2年3カ月後の剖検で肺芽細胞腫と判明し，大腸癌重複例であった．

74. 肺全剔術後気管支断端瘻に対し有茎性大網弁を用い治療せしめた1症例

A case used of omental pedicle for treatment of bronchopleural fistula following pneumonectomy.

（国立療養所中野病院外科）
稲垣　敬三，谷尾　　昇，河合　　靖・
矢野　　真・林　　康史・森田　敬知・
荒井他嘉司

症例は，56歳男性，右上葉腺癌に上葉切除をみるも気管支脆弱にて全剔術となった．術後6カ月断端瘻を発症，断端再切除不能例のため，昭和61年6月19日有茎性大網弁を用い断端瘻を閉鎖した．現在術後経過良好．

75. 肺小細胞癌術後13年目に発生した胸壁腫瘍の1例

A case of chest tumor, 13 years after pneumonectomy for small cell lung cancer.

（昭和大学医学部外科）
井上　恒一・高場　利博・加嶋　俊隆・
渡辺　俊明・門倉　光隆・山田　　真・
鈴木　　博・石井　淳一
（同第1病院）　副島　和彦
（群馬大学第二外科）　安斎　徹男

症例は53歳男性，13年前に群馬大学第2外科にて右肺小細胞癌の診断で右肺剔術を受けている．今回，右胸壁の腫瘍を発見された．小細胞癌の胸壁再発の疑いにて手術を行った．

17：24～18：14

座長　田中　信行（横浜栄共済病院）

76. 右前上縦隔に発生した静脈性嚢胞の1手術治験例

A case report of successfully treated venous cyst of the mediastium.

（帝京大学第一外科）
師田　　昇・中岡　　康
（日本医科大学第二病理）　松本　光司

35歳女性，2年前より右肺門部異常影が，徐々に増大するため術前，気縦隔，上大静脈造影，CTなどの検査を行い，血流豊富な前縦隔腫瘍の術前診断で開胸，上大静脈縦隔側に茎を有する単腔性，ポリープ状に発育した静脈性嚢胞と判明，摘出した．縦隔単腔性血管腫瘤は稀なので，その組織，文献も加え報告する．

77. 左無名動脈欠損を伴った右大動脈弓の1手術治験例

A case of right aortic arch with defect of left innominate artery.

神奈川県立長浜病院心臓血管外科）
蔵田　英志・佐藤　　順・河野　光紀・
梶原　博一・真下　好勝・佐藤　秀之